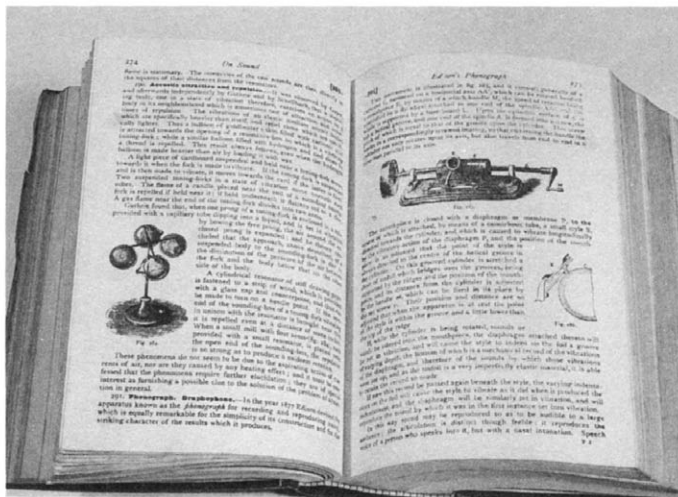
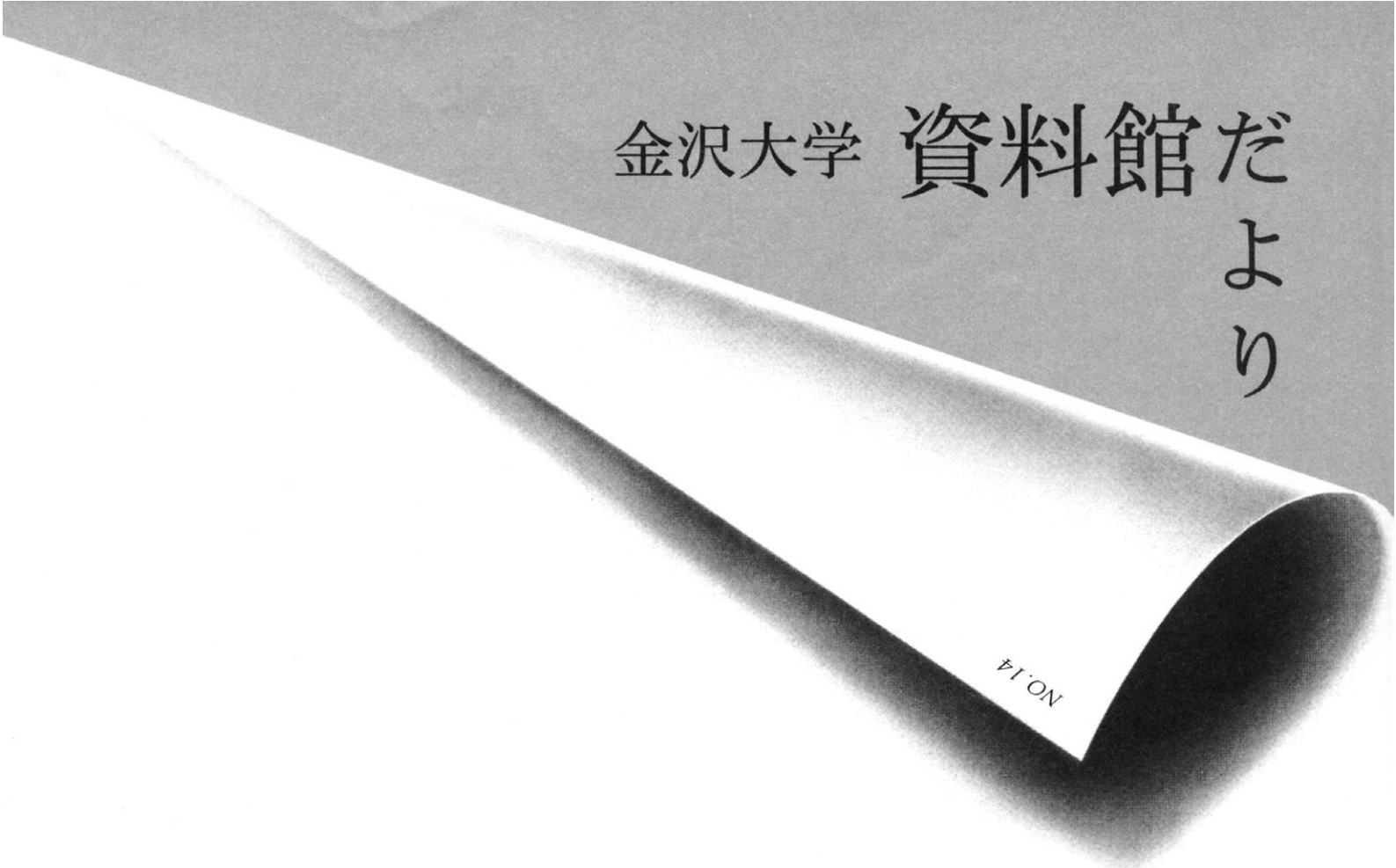
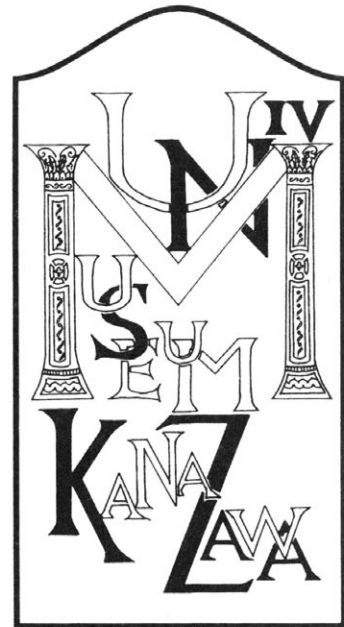


金沢大学 資料館 だより



ガノーの物理書
(Elementary Treatise on Physics. Tokyo, Rairaido. 1895)



KANAZAWA UNIVERSITY MUSEUM

就任のご挨拶にかえて

三 好 義 昭

本年4月から、前資料館長の宮下孝晴先生(教育学部)のあとを引き継ぐことになりました。遅ればせながら紙上を借りてご挨拶申し上げます。

平成8(1996)年1月に学術審議会学術情報資料分科会学術資料部会が「ユニバーシティ・ミュージアムの設置について(報告)ー学術標本の収集、保存・活用体制の在り方についてー」を提言いたしました。が、「資料館設置準備委員会」が昭和63(1988)年11月に提出された「金沢大学資料館設置準備に関する報告書」の前文に「本資料館を将来 University Museum に発展させるための基礎づくりとして・・・」と述べておられるように、当資料館は学術審議会学術情報資料分科会が提言する遙か以前に将来のユニバーシティ・ミュージアム設立を視野に入れた遠大な計画のもと設立されました。以来、今日まで歴代館長はじめ資料館運営委員各位のご努力により、主として資料の収蔵・整理・保存を行うと共に、平成5(1993)年には、資料館2階の当初多目的ホールの天窓に紫外線遮断フィルム貼付を行い展示室に改装して以降、常設展示ならびに数々の特別展を開催。平成8(1996)年度から「資料館だより」を年2回発行ならびに「資料館ホームページ」

を開設。平成9(1997)年度には「金沢大学資料館紀要」創刊ならびに地域に開かれた大学の一環として、資料館主催の公開講演会を開催する等、ユニバーシティ・ミュージアム設立に向け着々と実績を上げて来られました。しかしながら、資料館の構想・設置準備段階での経緯から、現在の収蔵資料はほとんどが文化史資料となっておりますが、ユニバーシティ・ミュージアム設立に向け文化史資料はもとより、自然史資料、科学技術史資料の充実をめざす必要があります。さらに身近には、学内に資料館の位置や存在すら知られていない事実もあります。これは資料館の構造上の理由から、展示室を常時開館していないことが大きく影響していると思えます。今年度から「資料館だより」の発行部数を増やし、附属図書館の「こだま」に準じて学内の皆さまに広く配布させて頂きました。また、新入生向けのパンフレットを作成し、来年度、図書館ガイダンス時に配布を予定しております。そして、試験的にまずは定期開館を模索したいと思っております。

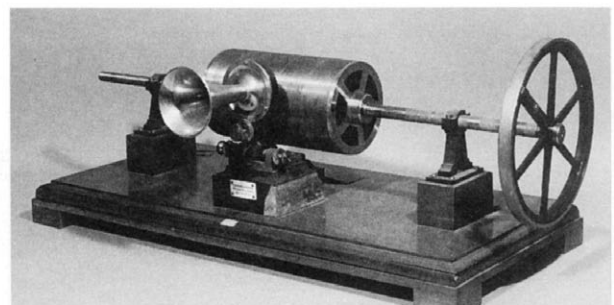
ユニバーシティ・ミュージアム実現に向け、皆様のなお一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。
(資料館長)

収蔵資料紹介

発條付蘇音器 はつじょうつきそおんき

「発條付蘇音器」は、第四高等学校一本学理学部一本学教養部一資料館と、受け継がれてきた「四高物理機械」のひとつ。録音・再生装置である。円筒を回転させながらラッパ状のマウスピースに音声を入れると、マウスピースに付けられた振動板が振動、その振動を振動板の中央の針によって円筒を被う錫箔に刻んで記録し、それを再生するという仕掛けである。購入年価格等は不明だが、明治初期に広く使用されたガノーの物理書(Elementary Treatise on Physics. Tokyo, Rairaido. 1895)には、イラストとともにこの器械の使用方法が記されており、明治期には

四高でも実験機器として使われていたと思われる。近代科学の導入期の物理学教育を考証する際の資料として注目される。「発條」はバネのこと。この場合は金属を曲げた平バネで、振動板中央の針を支える細い弾性のある金属板のことをさすと思われる。



【音響学 039】 発條付蘇音器

世界の博物館・4

アラブ首長国連邦の考古学博物館

佐々木 達 夫

アラブ首長国連邦の博物館は、伝統的なタイプと、コンピュータ技術を用いた最新式が共存している。博物館とその展示方法を考えるうえで、おもしろいところだ。アラブ首長国連邦には、まだ連邦博物館がない。その構想はかなり前からあるのだが、7つの首長国が独自に国立博物館を設立している。中央のアブダビに資料を集めることにたいして、各首長国の反発があるのだ。首長国博物館の多くは、首長が以前住んでいた泥と木の壊れかけた砦を修復したものである。石油で潤った首長は今、アラビアンナイトに出てくるような豪華な宮殿に住む。

首長国連邦のなかでは、オアシス都市アラインの博物館が最初に設立された。アラビア半島の考古学を知る拠点となった。首長の住んだ砦の隣に建てた大きな平屋建物に、民俗資料と発掘資料の2種類を展示する。考古学資料は石器からイスラーム陶器まで、壁に沿ったガラスケースに並べる。地元の遺跡から出土した物が中心となり、簡単な解説が英文で書かれる。地図等のパネルも併せて展示する。これは、最近まで世界各地で広く採用された展示方法であり、一般的な考古学博物館といえる。アラインでも新博物館構想が以前からあったが、まだ建設は始



ドバイ博物館の中庭

ラッセルカイマ博物館前庭における開館記念式典
1998年12月

まらない。連邦の首都があるアブダビには石油博物館があるが、現在改修中で、他に見学できる博物館はない。

ドバイにも首長の砦を利用した博物館があったが、1996年に砦の地下に新博物館を建てた。旧博物館は壁際展示の一般的タイプだったが、新博物館は人形模型を置いて活気ある市場を再現する。観光客には好評だが、考古学資料の展示は小さな1部屋になり、学術的にはさびしくなった。民俗資料が中心で、砂漠の自然や動植物も展示し、音と光を利用して観光客に受けている。

アジュマンの博物館も首長の砦を利用し、警察関連の展示が主で、民俗資料も併せて展示する。

ウンマルクワインは砦の整備が遅れ、建築資材が置かれたままである。

フジェイラは、考古学資料と民俗資料を2室で展示する。考古学資料は大きな1室に展示だが、発掘出土品と適切な解説英文の組み合わせがよい。

ラッセルカイマも砦を利用した博物館で、考古学資料、民俗資料、貝などの自然資料、最近の歴史資料を展示する。私たちの発掘品もここに保管している。砦の中庭は、緑の木々が茂り、訪問者がホッとする場所だ。この博物館だけが2階の一部も展示室に利用しているが、他の博物館はいずれも1階だけを展示室としている。



ラッセルカイマ博物館中庭に復元された
16世紀の陶磁器を焼く窯

こうした伝統的な博物館の中で注目を引くのが、シャルジャの博物館である。シャルジャは博物館を含めた文化活動が盛んで、考古学博物館、自然史博物館、科学博物館、文化遺産博物館、砦博物館、イスラーム博物館などが最近陸続と建設された。文化遺産博物館は元商人の家を復旧改造して用い、白珊瑚石を壁に積み、白い漆喰を塗る。石油以前の生活を復元しており、併せて市場風景も展示し、さまざまな物資を狭い通りに面する小さな部屋で実際に販売する楽しい博物館である。シャルジャ考古学博物館は1997年に旧考古学博物館の近くで再開館した。コンピュータを展示場に導入した最近流行の世界の先端を行くタイプの博物館である。大きな映像

でアラビア語と英語で交互に数分間の簡潔なビデオを、自然や歴史、民俗を組み合わせて写す。各室を通過すると波のような音がする等、音響効果も狙う。広く高い天井の部屋がテーマごとに続く。遺物の展示数は少なく、文章も簡潔である。専門家には物足りない部分もあるが、一般客には展示が見やすい。コンピュータが各部屋に置かれ、画面を指で触ると展示品やテーマ項目の写真が現れる。最先端の画像による展示方法である。部屋には中央に住居等の模型が置かれ、壁に沿って僅かな出土品が展示され、簡単な記述が添えられる。部屋ごとの展示は、考古学と研究方法を紹介し、文化ごとにまとめる。イギリスの会社に展示を依頼し、ロンドン大学の考古学者が展示内容の相談にのった。コンピュータの解説も英語とアラビア語がある。二つの言語で博物館のカラー写真入りカタログが出版されるのも、アラブ首長国連邦の博物館の中では珍しい。多くの博物館は印刷物の原稿を作るスタッフがいない。

アラブ首長国連邦の考古学博物館は、独特の歴史的雰囲気を持っている。首長が住んでいた日干レンガ造りのFortを修復した味わい深い博物館がまだ主流である。最新のコンピュータ利用博物館は、建物もいかにも現代風で美しい。展示室がゆったりとして、同一平面を展示場としている。だれでも歩きやすい階段のない広々とした内部は、心地よい場である。
(文学部考古学教授)

金沢大学創立50周年記念展示

5月29日から6月11日まで、本学創立50周年記念展示が附属図書館前特設会場と資料館展示室を会場に開催されました。資料館では、写真資料の収集と解説、展示解説『金沢大学創設資料』・『蔵書展－金沢大学の源流』の編集、記念展示ホームページの作成に協力しました。この際、前身校OB、本学元教官・OB・各部局、郷土史研究者など、学内外の多くの方々に御協力いただきました。



資料収集の方針について

収蔵基本方針検討小委員会の報告から

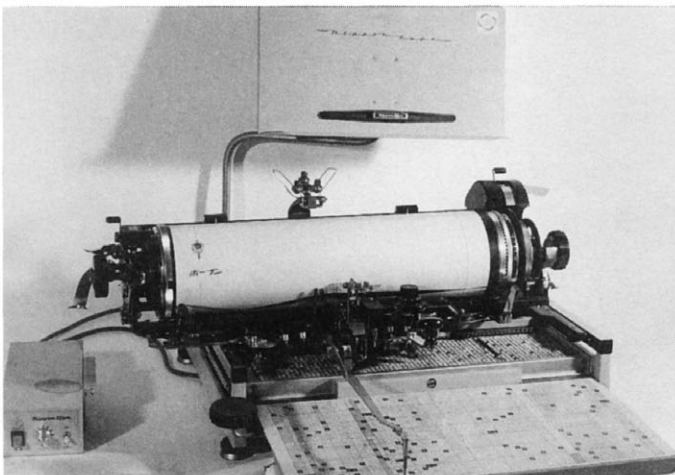
三 好 義 昭

資料館は、総合移転にあたり、金沢城内キャンパスの加賀藩時代の遺構である「石川門」「三十間長屋」「鶴之丸倉庫」に保管されていた資料を保管・公開、研究・教育に資するための施設として構想され、平成元(1989)年4月、本学における学術研究資料を系統的に収集、整理及び保存し、教育研究に資することを目的とする(資料館規程第2条)、学内共同利用施設として設立された。以来、主として資料の収集、整理、保存を行ってきたが、昨年8月収蔵の「各種機器(12点)」の中に量産機種と事務器が含まれていたことが発端となり、資料収集基準の明確化が必要となった。

本年度第1回資料館委員会にて「収蔵基本方針検討小委員会」が発足し、改めて資料館設立の経緯を振り返ると共に、構想段階及び設立後の資料収集のあり方を確認した。

1. 資料館設立までの経緯

昭和61(1986)年7月、総合移転実施特別委員会に、「資料館検討小委員会」が設置され、金沢城内キャンパス石川門・三十間長屋・鶴之丸倉庫に分散して保管されている歴史・考古・美術等の資料を移転後どのように保管するかを検討した。



各種機器 12点のうち、和文タイプライター

同小委員会は昭和62(1987)年2月「資料館の基本構想」を報告。構想の「目的」には、角間移転にあたり、「人文科学関係の学術研究資料を系統的に収集整理保存してそれを研究し展示公開する」、さらに「総合大学の特性を發揮して自然科学系の資料も展示公開し、異分野の研究成果を交流学問的認識を高める」ことがあげられている。また「設立の趣旨」に「新たな機能として、人文関係にとどまらず自然科学関係の資料も含めた展示公開に重点を置く」とあり、展示においては自然科学関係の資料を扱うことが示されている。

昭和63年(1988)3月、上記「基本構想」を受けて、将来計画検討委員会内に「資料館設置準備委員会」が発足し、「当初搬入資料」、「資料館事業内容」、「金沢大学資料館規程」等を策定。昭和63(1988)年11月これらをまとめた「金沢大学資料館設置準備に関する報告書」を提出した。

設置準備委員会内に発足の「当初搬入資料及び初年度設備案作成のための小委員会(=資料館設置準備小委員会)」にて、当初搬入資料を選定した際、「資料館資料についての覚書」が提示されている。「覚書」には選定のための条件「(A)歴史的価値をもつもの。(B)展示及び研究資料として、十分にその価値をもつと考えられるもの。」が示されており、これを満たすとされた資料は以下であった。

(当初搬入資料)

「明倫堂」「経武館」、前身校旧蔵扁額類、暁烏敏陶磁器コレクション、甲冑、平安期木造仏、油彩画、日本画、考古学資料(暁烏敏収集古瓦、四高考古資料、金沢城跡68・69年発掘調査出土資料、金沢城跡出土五輪塔、金沢城跡出土石層塔搭身、一乗谷朝倉氏遺跡出土資料、西村見暁土器ランプコレクション、井上鋭夫収集資料)

同報告書「資料館事業内容」に示された「資料の収集」の項には「本学の教育・研究並びに市民の社会教育に資する美術、工芸、考古、歴史等の資料を収集する。」とある。このように資料館設立の構想の発端となる資料が文化史資料であったため、この時点では資料収集も文化史資料に限定されていた。



三十間長屋に保存されていた考古学資料 平成元年

2. 資料館設立後の収蔵資料

平成元(1989)年4月の資料館発足後、新たに収蔵された資料は、以下のとおりである。

なお平成5(1993)年、資料館に収蔵を希望する資料についての全学調査が行われているが、この依頼文には「資料館は、これまで基本的に、歴史、考古学、文化人類学、芸術等の分野の資料を収集対象としてきましたが、このたび、総合移転に伴う資料の散逸を防ぐことを目的として、自然科学分野の資料であっても、研究・教育上、歴史的価値を有するものについては収集対象に含め、収蔵資料の充実をはかることといたしました。」とあり、「歴史的価値を有する」自然史資料が収集の対象となった。この調査の結果、収蔵されたのが「四高物理器械」である。また平成7(1995)年には旧式小型計算機の所蔵調査を行っている。

- 1991 小中屋文書
彫刻「墮天使」、「裸婦像」
- 1993 四高物理器械(第1次)
青野元学長寄贈薩義爾氏筆書「茫茫東海」
- 1994 四高物理器械(第2次)
絵画「野の花」「庭の一隅」「鷺図」
絵画「パンテオンの見える風景」「薔薇」、
書「師範学校創立六十周年記念祝賀之詩」
- 1995 絵画「籠球」

- 1996 旧式小型計算機10点収蔵
大学総合移転資料
- 1997 絵画「日比野信一教授像」「鶴羽松太郎教授像」
松島家文書
- 1998 各種機器12点

3. 学術標本

平成8(1996)年1月、学術審議会学術情報資料分科会学術資料部会から出された「ユニバーシティ・ミュージアムの設置について(報告)－学術標本の収集、保存・活用体制の在り方について－」は、大学の研究・教育活動の結果蓄積されていく「学術標本」について述べ、それらをを保存・活用する施設として「ユニバーシティ・ミュージアム」の必要性を説いた。

学術標本は、同報告によれば、「学術標本は、自然史関係の標本や古文書・古美術作品等の文化財に限定されるものではなく、学術研究により収集・生成された『学術研究と高等教育に資する資源』である」と定義されている。したがって、それぞれの研究・教育分野において学術標本となり得る資料は極めて多岐にわたり、その種類・形状・規模も多様である。しかし、ここでいう学術標本とは、それらすべての資料をさすのではなく「学術研究の目的で収集あるいは生成されたもののうち、学術研究用の生物、不動産や構築物等の大型の資源、既に図書館・文献資料センター等で保存活用されている文献等を除いた有形の1次資料。」としている。

当館においてはこれまでの経緯から収蔵資料は文化史資料に偏っているが、「学術標本」(＝学術研究により収集・生成された『学術研究と高等教育に資する資源』)を対象とすることで文化史資料に限らず自然史資料、科学技術史資料をも収集することとなる。

しかし、現在学部・研究科等にある「学術標本」は、研究を目的として収集される資料、研究の結果蓄積される資料であり、これらが当該学部・研究科で活用されている間は、資料館に収蔵されることはないと思われる。学術的な記載がなされた資料のう

ち、教官の交代等により学部・研究科での継承が困難な資料を進んで受け入れる体制づくりをし、広く学内に呼びかけ、自然史資料、科学技術史資料の充実を目指したい。

今回の問題提起のきっかけとなった実験機器類等は、学術標本としての認識は薄く、備品として登録されているため耐用年数が過ぎれば廃棄される。しかし、本学での優れた研究に用いられた機器類は

本学の歴史に関わる資料として積極的に収集することが小委員会です承された。また時の淘汰を受けている機器類、すなわち旧制校時代・本学創設期のものは、学史・教育史を示しうる貴重な資料であり「学術標本」とみなすことができる。工学部・薬学部の移転にあたり、「学術標本」及び前史を含む本学の歴史を語る貴重な資料の散逸を防ぐべく、御協力をお願い致します。(資料館長)



HANDS ON !!



HANDS ON !!



講演会・特別展のお知らせ

平成11年度の講演会・特別展はテーマを「hands on!」として連動させて行います。hands on(ハンズ・オン)とは、単に見るだけでなく、触ったり、においをかいだり等々のさまざまな体験を通して展示物との関わりをもてるよう工夫された展示のことです。

講演会の講師には、現在幅広く博物館やハンズ・オン(hands on)に関係する仕事に従事されている染川香澄さんをお招きして、「hands on」の魅力について講演いただく予定となっています。また、特別展“hands on!!”では、実際に体験できる企画を用意しておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

特別展“hands on!!”－四高物理実験機器のある風景

期間：平成11年11月1日(月)～5日(金)

但し、3日(祝・水)は休館致します。

時間：午前11時～午後4時

会場：附属図書館内資料館展示室

講演会

『ハンズ・オンの魅力～ children's museum の現場から』

講師：染川香澄

『子どものための博物館』や、『ハンズ・オンは楽しいー見て、さわって、遊べる子どもの博物館』などの著者。京都市生涯学習振興財団理事他各種委員。

日時：平成11年11月5日(金)

午前10時30分～午前12時

会場：金沢大学附属図書館 AV 室 (三階)

入場無料



染川さんとうさぎのアーサー

資料館彙報 (平成11年2月～平成11年9月)

- 2月：石川県立歴史博物館に保管されていた四天王寺址瓦当ほか考古関係資料を引き取った。(17日)
- 3月：「資料館だより No.13」を発行。
- 3月：「金沢大学資料館紀要 No.1」を発行。
- 4月：宮下孝晴前館長の任期満了に伴い、後任として三好義昭・教育学部教授が館長に就任。
- 4月：須恵質人物埴輪2点の台帳登録を(平成10年度4月1日付)行い、同資料を石川県立歴史博物館に貸与した。
- 4月：ドイツ, Regensburg 大学より R.Schmitt 博士夫妻が来館。(19日)
- 4月：イギリス, Sheffield 大学より R.Shiddle 博士が来館。(26日)
- 4月：第1回資料館委員会を開催。(26日)
- 5月：ふるさと偉人館企画展「一金沢―明治の中・高等学校」のため、四高物理機器4点(ジーメンス氏ジヌブリットン・フーコー電流発生器・ブレグエット氏金属寒暖計・エキスネル(Exner)氏電気計)出品。
(平成11年5月10日～平成11年12月22日まで)
- 5月：収蔵基本方針検討小委員会発足(17日 第1回小委員会開催)(～7月第4回(書面付議)まで開催。)
- 6月：附属図書館特設会場及び当館展示室において金沢大学創立50周年記念展示(5月29日～6月11日)開催。
- 7月：ブルガリア, スヴィシュトフ経済大学より A.D.Petrov 学長が来館。
- 8月：韓国, 永同大学校より韓氏来館。
- 8月：オープンキャンパス(4日)
- 8月：国立科学博物館・文化庁産業遺産研究調査の調査員来館。(6日)
- 9月：オーストラリア, グリフィス大学より Harrison 教授来館。(6日)
- 9月：エコノミスト9月7日号に資料紹介文を掲載。
- 9月：全国大学史資料協議会出席者展示室を見学。(21日)
- 9月：客員研究員として石川県教育委員会生涯学習課自然史資料整備室所属今江新成氏, 金沢市立小坂小学校教諭野間成之氏を資料館委員会で承認。(28日)

金沢大学資料館だより<第14号>

館長 三好 義昭 (教育学部教授)

館員 在田 則子 (事務補佐員)

館員 宮 さやか (事務補佐員)

〒920-1192 金沢市角間町金沢大学附属図書館内

電話 (076) 264-5215

F A X (076) 234-4051

E-Mail museum@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

発行日 平成11年10月1日

編集発行 金沢大学資料館

印刷 田中昭文堂印刷株式会社